

福島県総合計画について (一部抜粋)

総合計画の基本的事項(第1章)

- ①総合計画は、県のあらゆる政策分野を網羅し、県づくりの指針や施策を示す県の最上位計画
- ②計画期間は、令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの9年間
- ③本計画の実行計画として、「ふくしま創生総合戦略」と「第2期福島県復興計画」を復興・再生、地方創生を推進する両輪として位置付ける など

みんなで創り上げるふくしまの将来の姿(第2章・第3章)

福島県を取り巻く現状と課題(第2章)

- ①復興・再生の現状と課題
- ②地方創生の現状と課題
- ③横断的に対応すべき課題(自然災害、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化対策 など)

策定過程における県民参加(第1章) 県民の皆さんからの意見(第3章)

県民の総合計画への関心を高めるため、策定過程において、幅広い年代から多くの意見を聴取

- ①総合計画審議会、②地域懇談会、③市町村との意見交換、④対話型ワークショップ(小中学生・高校生・大学生)、⑤アンケート など

県づくりの 理念

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会(県)づくり
- 魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり

基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる
ふくしまを共に創り、つなぐ

みんなで創り上げるふくしまの将来の姿(第3章)

- | | | |
|--|---|--|
| <p>「誰もが活躍できる」
「ひとりぼっちにしない」
「人とのつながり・支え合い」などの
“ひとを大切にする”
=「ひと」</p> | <p>「医療・福祉が充実」
「災害や犯罪が少ない」
「子どもが育てやすい」「自然豊か」などの
“安心・快適に暮らせる”
=「暮らし」</p> | <p>「産業や観光が盛んである」
「雇用の受け皿がある」
「一次産業の活性化」などの
“働きたい場所(仕事)がある”
=「しごと」</p> |
|--|---|--|



“ひと”「暮らし」「しごと」が
調和しながら
シンカ(深化、進化、新化)する
豊かな社会”を目指します。

具体的な将来の姿について、
・普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため
・福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めるため



世界の共通言語である
SDGsの視点で描く

政策分野別の主要施策(第4章)

<大事にしたい視点>

誇り

連携・共創

挑戦

ご縁

信頼

自然災害・新型コロナウイルス・地球温暖化・デジタル変革などへの対応

ひと分野

- ① 全国に誇れる健康長寿県へ
- ② 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり
- ③ 「福島ならではの」教育の充実
- ④ 誰もがいきいきと暮らせる県づくり
- ⑤ 福島への新しい人の流れづくり

暮らし分野

- ① 東日本大震災・原子力災害からの復興・再生
- ② 災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり
- ③ 安心の医療・介護・福祉提供体制の整備
- ④ 環境と調和・共生する県づくり
- ⑤ 過疎・中山間地域の持続的な発展
- ⑥ ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり

しごと分野

- ① 地域産業の持続的発展
- ② 福島イノベーション・コースト構想の推進
- ③ もうかる農林水産業の実現
- ④ 再生可能エネルギー先駆けの地の実現
- ⑤ 魅力を最大限いかした観光・交流の促進
- ⑥ 福島の産業を支える人材の確保・育成
- ⑦ 地域を結ぶ社会基盤の整備促進

地域別の主要施策(第5章)

7つの地域それぞれにおける地域の課題や主要な施策を示します。

- 地域の概要・特徴
- 地域の課題
(目指す方向性、地域の課題、主要施策)



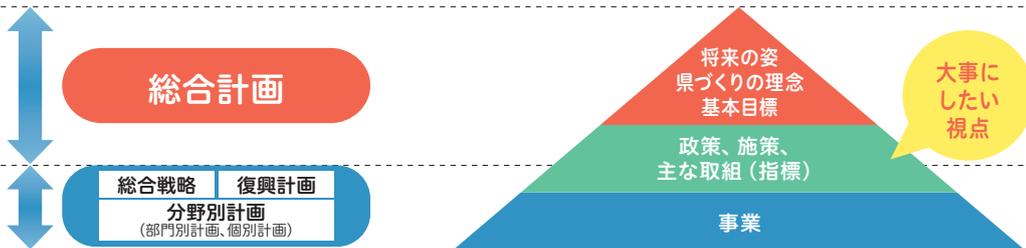
計画の推進のために(第6章)

- ① 計画推進に当たっての考え方
- ② 計画の進行管理
PDCAマネジメントサイクルによる自己点検、第三者による評価
(総合計画審議会、地域懇談会)

8つの重点プロジェクト

- ① 避難地域等復興加速化P
- ② 人・きずなづくりP
- ③ 安全・安心な暮らしP
- ④ 産業推進・なりわい再生P
- ⑤ 輝く人づくりP
- ⑥ 豊かなまちづくりP
- ⑦ しごとづくりP
- ⑧ 魅力発信・交流促進P

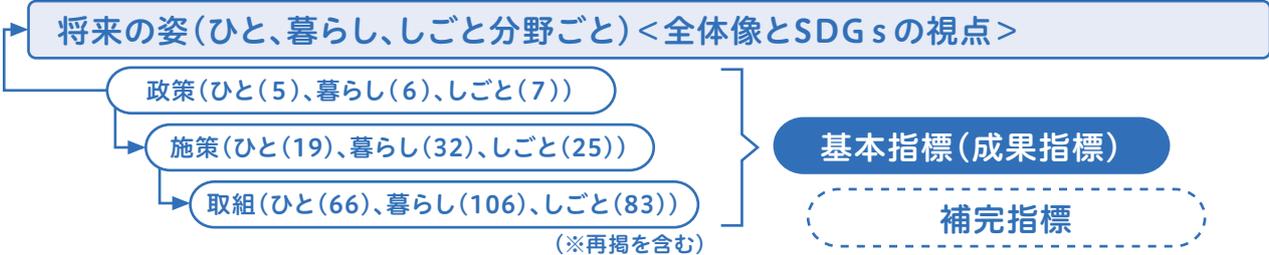
計画の構造



3 政策分野別の主要施策の体系

本計画は、目指す将来の姿から、その実現のための県が取り組む政策、施策や取組の成果を測る指標を一連の体系で構築しており、その体系は以下のとおりです。

●政策分野別の体系概要



●指標について

県の施策は、将来の姿の実現に向けた課題解決を目指して取り組むものであり、総合計画に掲げる指標は県の取組の成果を表すものです。

指標について以下のとおり区分します。

基本指標(成果指標) : 施策によって、課題解決をどれだけ達成したかの成果を測る指標

補完指標 : 課題解決の達成状況を直接的に測る指標ではないが、課題や取組の現状分析に資する指標

●目標値設定の考え方について

目標値の設定については、目指す将来の姿の実現に向け、**全国との比較、国で定める目標値との整合や過年度実績、将来予測**などを踏まえ、それぞれの指標において設定しております。

●政策分野別の主要施策の体系

分野	政策	施策
ひと	全国に誇れる健康長寿県へ	若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防 など4施策
	結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり	出会い・結婚・妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実 など3施策
	「福島ならではの」教育の充実	「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 など6施策
	誰もがいきいきと暮らせる県づくり	多様な人々が共に生きる社会の形成 など4施策
	福島への新しい人の流れづくり	ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 など2施策
暮らし	東日本大震災・原子力災害からの復興・再生	複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生 など8施策
	災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり	災害に強い県土の形成 など7施策
	安心の医療・介護・福祉提供体制の整備	質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策
	環境と調和・共生する県づくり	豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策
	過疎・中山間地域の持続的な発展	過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策
	ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり	にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策
	地域産業の持続的発展	地域の企業が主役となる、しなやかで力強い地域産業の育成・支援 など3施策
しごと	福島イノベーション・コースト構想の推進	福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・振興 など4施策
	もうかる農林水産業の実現	農林水産業の多様な担い手の確保・育成 など5施策
	再生可能エネルギー先駆けの地の実現	再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と利用促進 など3施策
	魅力を最大限いかした観光・交流の促進	ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信による誘客の拡大 など4施策
	福島の産業を支える人材の確保・育成	県内経済を支える人材の確保・育成 など3施策
	地域を結ぶ社会基盤の整備促進	基盤となる道路ネットワークの整備 など3施策

ひと分野



①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生 ⑦エネルギー ⑧経済成長と雇用
⑬気候変動 ⑭海洋資源 ⑮陸上資源 ⑯平和 ⑰パートナーシップ

将来の姿		主な課題
全体像	SDGsの視点	
<p>誰もが生涯を通じて健康で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている</p> <p>(県民健康調査や、被災者の状況に応じた支援などにより、県民の健康の維持、増進及び不安解消が図られている)</p>	<p>③若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドローム該当者の割合が多い(全国ワースト4位(R元データ)) ・肥満傾向の子どもやむし歯の子どもが多い ・県民の健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の被災者の健康増進や健康不安への解消の取組継続が必要
<p>結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境が整っている</p>	<p>③安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている</p> <p>⑤地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未婚率や平均初婚年齢の上昇などにより出生数や合計特殊出生率が減少傾向 ・提供している出会いの機会の周知を進め、交際・成婚に向けた後押しが必要 ・分娩取扱施設が減少しているなど周産期医療体制は厳しい状況であり、産婦人科医を安定的に確保して、安心して出産できる環境づくりが必要 ・男性の育児休業取得推進等、社会全体で子育てを支える仕組みづくりが必要
<p>子どもたちが多様な個性をいかしながら、健やかに育つ教育環境と安全・安心な居場所が確保されている</p>	<p>④知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている</p> <p>④震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習調査において、算数・数学、英語が全国平均を下回っている ・震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多い ・教職員の長時間勤務が多い ・本県の子どもたちの体力(県平均)が全国平均を下回っている ・復興の過程で生まれた課題そのものを学びとする特色ある教育など、福島ならではの教育を推進する必要
<p>援助を必要としている人それぞれの状況に応じた相談・支援体制が充実し、一人一人が個人として尊重されている</p>	<p>①誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを享受できる環境が整っている</p> <p>⑤あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている</p> <p>⑩年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている</p> <p>⑯安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの考えに基づく取組の更なる推進が必要 ・虐待やDVの増加の懸念 ・男女共同参画の更なる推進が必要 ・若年層の自殺率が高止まりするなど、心の健康の問題を抱える方が多い
<p>本県の魅力や情報の発信により、福島とつながりを持つ人々が増加し、福島への新たな人の流れが増えている</p>	<p>⑪本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものになっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本県と関わりを持つ人の拡大を図る必要 ・「収入・仕事の確保」、「生活環境」や「住居」等の情報発信や支援の充実 ・ふくしまを応援してくれる方々との連携強化 ・震災以降に新設された各種拠点の活用

政策 - 施策

基本指標(成果指標)

<p>全国に誇れる健康長寿県へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防 食、運動、社会参加による健康づくり 高齢者の介護予防の強化 東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり 	<p>●健康寿命</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合(特定健康診査受診者) ●がん検診受診率 ●がんの年齢調整死亡率(全がん・男女計・75歳未満・人口10万対) ●80歳で自分の歯を20歯以上有する者の割合及び6歳・12歳でむし歯のない者の割合など ●成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率 ●肥満傾向児出現率の全国平均との比較値など ●高齢者の通いの場への参加率 ●被災自治体の特定保健指導実施率
<p>結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実 安心して子育てできる環境づくり 社会全体で子育てを支える仕組みづくり 	<p>●福島県で子育てを行いたいと回答した県民の割合(意識調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●婚姻数 ●合計特殊出生率 ●周産期死亡率 ●産科・婦人科医師数(人口10万対) ●小児科医師数(人口10万対) ●保育所入所希望者に対する待機児童数の割合 ●男性の育児休業の取得率(民間(事業所規模30人以上)及び福島県(知事部局))
<p>「福島ならではの」教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 学校組織の活性化の推進 多様性を重視した教育の推進 福島に誇りを持つことができる教育の推進 人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり 安心して学べる環境づくり 	<p>●地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値など ●時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 ●不登校の児童生徒数(小・中学校及び高校) ●震災学習の実施率 ●地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 ●全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値など ●放課後児童クラブの申込児童に対する待機児童数の割合
<p>誰もがいきいきと暮らせる県づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様な人々が共に生きる社会の形成 人権侵害等の防止対策の強化 男女共同参画社会の実現 援助を必要とする人を支え、安心、やさしさを実感できる社会の実現 	<p>●日頃、人と人の支え合いや絆を実感していると回答した県民の割合(意識調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「福島県は外国人にとって暮らしやすい」と回答した外国人住民の割合(意識調査) ●「多様性を理解した社会づくりが進んでいる」と回答した県民の割合(意識調査) ●市町村地域福祉計画策定率 ●県の審議会等における委員の男女比率 ●民営事業所の管理職における女性の割合(係長相当職以上) ●県(知事部局)の管理職における女性職員の割合(副課長相当職以上) ●地域において、女性の社会参加が進んでいると回答した県民の割合(意識調査)
<p>福島への新しい人の流れづくり</p> <ol style="list-style-type: none"> ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 移住・定住の推進 	<p>●自殺死亡率(人口10万対)、自殺者数</p> <p>●人口の社会増減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移住を見据えた関係人口創出数 ●ふくしまファンクラブの会員数 ●移住世帯数 ●移住ポータルサイトへのアクセス数(ページビュー) ●都内の移住相談窓口における相談件数 ●移住コーディネーターの活動件数

「ひと」分野

政策
3

「福島ならではの」教育の充実

全国学力・学習状況調査において、算数・数学や英語が全国平均を下回っており、また、学力が低い層が多いなど学力面に課題があります。さらに震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多く、不登校児童生徒数も増加している状況です。加えて、改善傾向にあるものの、体力面において男子が全国平均を下回っているとともに、肥満傾向児の出現率は男女ともに全国平均よりも高く、健康課題の改善を要する子どもが多く存在します。

一方で、東日本大震災・原子力災害からの復興の過程で生まれた課題そのものを学びとする探究活動や風評を払拭する観点からの農業高校等におけるGAP教育等の先端的な教育活動により、特色・魅力ある教育が進展しています。

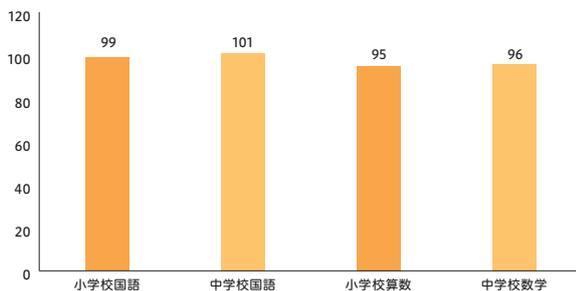
また、震災があったからこそ芽生えた子どもたちの意識（感謝の気持ちや地域へ貢献したい気持ち等）の高さなど福島ならではの強みも生まれています。

複合災害による課題先進県だからこそその課題解決学習を通して、知識や技能の習得だけではなく、世界共有の課題に挑戦する当事者意識等を育成する取組によって、急激な社会の変化の中において、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかしながら、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人を育成していく必要があります。

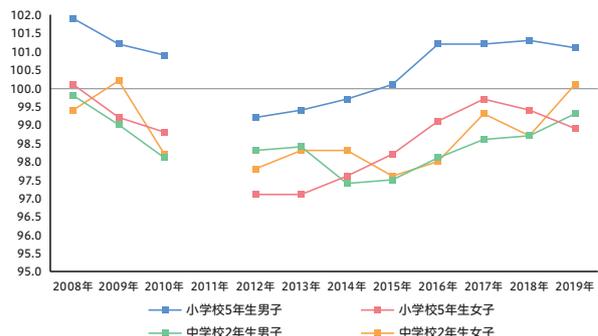


地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

令和3年度全国学力・学習状況調査結果
(全国を100とした本県の割合)



全国体力・運動能力、運動習慣等調査【体力合計点】経年変化
県平均/全国平均



施策

1

「学びの変革」の推進と資質・能力の育成

児童生徒の発達段階に応じた資質・能力の育成や、ICT等先進技術を活用した多様な学びを推進し、一人一人に最適な学習環境づくりに取り組みます。



【主な取組】

①学校段階を見通した確かな資質・能力の育成に関する取組

幼児教育段階から非認知能力を育成するとともに、幼小中高が連携し、知識・技能に限らず、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、変化の激しい社会にも対応できる資質・能力を育成します。

②複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成に関する取組

文理横断した知見を必要とする複雑な社会の課題に対して主体的に向き合い、解決する力を育成するため、プロジェクト学習（SDGsの視点を活用した地域課題解決学習、校則等に係る学校経営に生徒が主体的に参画する活動）等を学校の実態に応じて推進します。

③ICTの活用等による学びの変革に関する取組

1人1台端末の導入等を踏まえ、これまでの対面での教育実践とICT、紙とデジタルの双方の良さを取り入れた「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」を実現する取組を推進します。あわせて、情報モラル等情報活用能力を育成します。

施策

2

学校組織の活性化の推進

教職員の働き方改革の推進や柔軟な教職員体制を整備し、多様化する教育ニーズへの対応力を強化します。



【主な取組】

①教職員の働き方改革の推進に関する取組

教職員の長時間勤務を是正し、教職員の心身の健康の保持や児童生徒と向き合う時間の確保、積極的な自己研鑽の時間の確保等によって質の高い教育活動を展開し、学校全体の教育力を高めます。

②教員の養成・採用・研修に関する取組

教員採用試験において、一般選考に加え、教職経験者、臨時的任用教員経験者、スポーツ・芸術等の特別選考を実施し、深い専門性や実践的指導力のある教員の採用に努め、多様化、複雑化する教育ニーズに対応します。

③学校マネジメントの推進に関する取組

学校の抱える課題が多様化・複雑化している現状に鑑み、学校の指導体制の充実とチーム力の強化を図るため、副校長や主幹教諭等を配置し、きめ細かな指導と迅速な対応ができるよう校長のリーダーシップの下、チーム力の強化に努めます。また、教職員一人一人の倫理観や使命感の高揚を図る取組を継続実施します。

施策

3

多様性を重視した教育の推進

様々な背景を持つ児童生徒への個別支援や地域と連携した家庭教育の支援体制づくりに取り組み、一人一人の個性を伸ばす教育を推進します。



【主な取組】

①特別支援教育の充実に関する取組

障がいのある子どもたちが地域で共に学び、共に生きることができるよう、医療、保健福祉、教育、労働などの関係機関と連携を深め、個別の教育支援計画の引継ぎ等により、切れ目のない支援の充実を図ります。

②不登校児童生徒、帰国児童生徒、外国人児童生徒等への個別支援の充実に関する取組

不登校及びその傾向のある児童生徒へのスペシャルサポートルーム（SSR）の活用や、外国人児童生徒や帰国児童生徒への日本語習熟の授業等個別支援を進めるとともに、学びの機会を確保するための取組を県内に普及します。

③心のケアの充実に関する取組

道徳教育の充実、自然体験活動の推進などにより、思いやりの心などの豊かな心の育成を推進します。また、被災した児童生徒を始め、子どもたちの心のケアのためスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するなど、教育相談体制の充実を推進します。

④家庭の経済的支援の充実に関する取組

被災した子どもたちに対する就学援助や、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学が困難と認められる生徒に対し、奨学資金の貸与等を行います。

⑤家庭教育支援の充実に関する取組

「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう作成した学習プログラムの活用や、親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める研修会を実施します。

施策

4

福島に誇りを持つことができる教育の推進

震災の教訓の継承や避難地域における特色ある教育を展開し、福島の未来を担う人材の育成に取り組みます。



【主な取組】

①福島の今と未来の発信と震災の教訓の継承に関する取組

被災地や震災関連施設等を訪問し、被災者等との交流・協働、放射線・防災等に関する基礎的な知識や身の回りで行われている復興への取組を基に、郷土理解を促進するとともに、自ら考え、判断し、行動できる力を育成します。

②福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成に関する取組

小・中学校における理数教育、放射線・防災教育や、高等学校における各校の専門性をいかした学校間や企業等との交流・連携を推進し、国際教育研究拠点との連携を見据えながら、チャレンジ精神を持って本県の復興・創生に貢献する人材の育成を進めます。

③地域社会と学校が一体となって子どもを育てる取組

「地域コーディネーター」の配置やコミュニティ・スクールの導入等により、地域住民等と学校が連携・協働する体制づくりを促進しながら、各校の特色化や魅力化を図ります。また、地域課題探究学習の推進により、郷土理解を促進するとともに、子どもたちに対し、様々な経験ができる機会の充実を図ります。

施策

5

人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり

人生100年時代において、健康で豊かな人生を選び取ることができるよう、生涯にわたって学び続けることができる環境づくりを推進します。



【主な取組】

①子どもたちの健康教育の推進に関する取組

児童生徒自らが望ましい運動習慣や食習慣を確立し維持できるよう、自分の健康課題を認識し、その解決に積極的に取り組める自己マネジメント能力の育成を推進します。

②文化財の保存と活用に関する取組

文化財保存活用大綱に規定した、県全体の理念、基本方針の下、市町村と県がそれぞれの役割を認識し、積極的に保存と活用を推進し、文化財をいかしたひとづくり、まちづくりとの連携を図ります。

③社会教育施設等の利活用の促進に関する取組

県立図書館、県立美術館、県立博物館、文化財センター白河館、県文化センター、アクアマリンふくしま、東日本大震災・原子力災害伝承館、環境創造センター交流棟コミュタン福島において、常設展、企画展、教育普及事業などの充実を図ります。

④生涯学習の機会提供に関する取組

県の施設、公民館、大学等高等教育機関などにおいて、様々な講座やセミナーを開催し、県民に対してライフステージに応じた生涯学習の機会を提供します。また、市町村などと連携して生涯学習の機会の情報提供を行います。

施策

6

安心して学べる環境づくり

少人数教育の充実や放課後児童クラブ等の整備に取り組み、子どもたちが安心して学べる環境づくりを推進します。



【主な取組】

①少人数教育の充実に関する取組

専科指導を含めた少人数によるきめ細かな指導体制の構築や、過疎・中山間地域における極少数での学びの充実のための取組を支援します。

②避難地域12市町村などの特色ある教育に関する取組

避難地域12市町村の小中学校において特色あるカリキュラムを編成、実施するとともに、地域とのつながりを深める教育や魅力ある学校づくりを行うために必要な取組を支援します。

③私立学校の振興に関する取組

私学助成の充実や安定的・継続的な教育環境を確保するための取組などへの支援により、私立学校の振興を図ります。

④放課後の子どもの学習活動、交流活動に関する取組

全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、新・放課後子ども総合プランに基づき、放課後児童クラブの施設整備や放課後児童支援員の確保、放課後子ども教室に従事する者の質の向上に努めます。

基本指標（成果指標）

< 政策 3 >

「福島ならではの」教育の充実

地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合（高等学校）	< 現況値 > < 目標値 >	— ↑ 100%	(R12 年度)
---------------------------------------	--------------------	-------------	----------

< 施策 >

「学びの変革」の推進と資質・能力の育成

全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値（全国=100）（小・中学校）（小学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	99 ↑ 102 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（小学校 算数）	< 現況値 > < 目標値 >	95 ↑ 100 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	101 ↑ 102 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 数学）	< 現況値 > < 目標値 >	96 ↑ 100 以上	(R3 年度) (R12 年度)
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合（小・中学校）（小学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	83.5% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（小学校 算数）	< 現況値 > < 目標値 >	73.5% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	76.3% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 数学）	< 現況値 > < 目標値 >	70.8% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
CEFR A1 以上（英検 3 級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（中学 3 年生）	< 現況値 > < 目標値 >	37.3% ↑ 50.0%	(R 元年度) (R12 年度)
CEFR A2 以上（英検準 2 級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（高校 3 年生）	< 現況値 > < 目標値 >	34.7% ↑ 50.0%	(R 元年度) (R12 年度)

学校組織の活性化の推進

時間外勤務時間月 80 時間を超える教職員の割合	< 現況値 > < 目標値 >	12.1% ↓ 0%	(R2 年度) (R12 年度)
--------------------------	--------------------	---------------	---------------------

多様性を重視した教育の推進

不登校の児童生徒数（小・中学校） ※ 1,000 人当たりの出現率	< 現況値 > < 目標値 >	16.4 人 数値は毎年度把握し分析する (目標値は設定しない)	(R 元年度)
不登校の生徒数（高校） ※ 1,000 人当たりの出現率	< 現況値 > < 目標値 >	8.8 人 数値は毎年度把握し分析する (目標値は設定しない)	(R 元年度)

福島に誇りを持つことができる教育の推進

震災学習の実施率	< 現況値 > < 目標値 >	30.7%（参考値） ↑ 100%	(R2 年度) (R12 年度)
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合	< 現況値 > < 目標値 >	17.0%（参考値） ↑ 100%	(R2 年度) (R12 年度)

人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり			
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値 (全国=100) (小5男子)	<現況値> <目標値>	98.9 ↑100.0以上	(R元年度) (R12年度)
// (小5女子)	<現況値> <目標値>	101.1 ↑101.9以上	(R元年度) (R12年度)
// (中2男子)	<現況値> <目標値>	99.3 ↑100.0以上	(R元年度) (R12年度)
// (中2女子)	<現況値> <目標値>	100.1 ↑100.2以上	(R元年度) (R12年度)
自分手帳の活用率 (小学生) (再掲)	<現況値> <目標値>	95.5% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
// (中学生) (再掲)	<現況値> <目標値>	87.9% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
// (高校生) (再掲)	<現況値> <目標値>	23.3% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
肥満傾向児出現率の全国平均との比較値 (全国=100) (再掲)	<現況値> <目標値>	133.8 ↓100.0	(R元年度) (R12年度)
安心して学べる環境づくり			
放課後児童クラブの申込児童に対する待機児童数の割合	<現況値> <目標値>	3.6% ↓0%	(R2年度) (R12年度)

補完指標

(指標名)	(現況値)	(目標値)
◆ 「「福島ならではの」の教育の充実」関連		
・福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合 (意識調査)	R3年度 41.1% ※速報値	R12年度 73.0% 以上
◆ 「「学びの変革」の推進と資質・能力の育成」関連		
・児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数 (1クラス当たり) (公立小・中学校) (「ほぼ毎日」小学校)	R3年度 35.2%	R12年度 ほぼ毎日 100%
・ // (「ほぼ毎日」中学校)	R3年度 53.9%	
・ // (「週1回以上」小学校)	R3年度 46.8%	
・ // (「週1回以上」中学校)	R3年度 34.1%	
・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (小学校)	R3年度 74.2%	
・ // (中学校)	R3年度 72.9%	R12年度 100%
◆ 「学校組織の活性化の推進」関連		
・地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合 (小・中・高・特別支援学校)	—	R12年度 100%
・全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合 (「行っている」小学校)	R3年度 95.1%	R12年度 100%
・ // (「行っている」のうち「よく行っている」小学校)	R3年度 23.9%	R12年度 50%
・ // (「行っている」中学校)	R3年度 91.7%	R12年度 100%
・ // (「行っている」のうち「よく行っている」中学校)	R3年度 18.4%	R12年度 50%
◆ 「多様性を重視した教育の推進」関連		
・個別の教育支援計画の引継ぎ率	R元年度 70.9%	R12年度 100%
◆ 「人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり」関連		
・市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	R3年度 0市町村	R12年度 10市町村
・朝食を食べる児童生徒の割合 (小・中・高・特別支援学校)	R2年度 96.5%	R12年度 100%

施策

4

生涯の学び、文化・芸術に親しむ環境づくり

県民が生涯を通じて学び、文化・芸術等に触れて親しむ機会を創出することにより、本県の更なる文化力・地域力の向上を目指します。



【主な取組】

①社会教育施設等の利活用の促進に関する取組（再掲）

県立図書館、県立美術館、県立博物館、文化財センター白河館、県文化センター、アクアマリンふくしま、東日本大震災・原子力災害伝承館、環境創造センター交流棟コミュニティ福島において、常設展、企画展、教育普及事業などの充実を図ります。

②生涯学習の機会提供に関する取組（再掲）

県の施設、公民館、大学等高等教育機関などにおいて、様々な講座やセミナーを開催し、県民に対してライフステージに応じた生涯学習の機会を提供します。また、市町村などと連携して生涯学習の機会の情報提供を行います。

③声楽アンサンブルコンテスト全国大会に関する取組

声楽アンサンブルコンテスト全国大会を開催し、広域的な文化の交流を推進します。

④文化芸術の鑑賞・発表・参加に関する取組

文化芸術の鑑賞と文化活動の発表・参加の機会を提供します。

施策

5

ふくしまのスポーツの推進

県民の運動習慣の定着や競技力の向上などを通じて、本県スポーツの振興を推進していきます。



【主な取組】

①生涯スポーツの推進に関する取組

総合型地域スポーツクラブなどとの連携を図りながら、あらゆる世代の県民が、自身のライフステージに応じて、身近な地域でスポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。

②競技スポーツの推進に関する取組

本県スポーツの競技力の強化に向けて、競技団体を通じ、選手の競技活動を支援します。

③障がい者スポーツの推進に関する取組

障がい者の特性に応じてスポーツに参加することができるよう、総合体育大会や各種スポーツ教室を開催するなど、スポーツを通じた社会参加の促進に努めます。

④オリンピック・パラリンピックのレガシーに関する取組

オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承し、地域における県民のスポーツ活動の更なる普及・推進を図るため、地域の活動拠点である総合型地域スポーツクラブやスポーツボランティアの取組などを支援します。

基本指標（成果指標）

< 政策 6 >

ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり

文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合（鑑賞を含む）（意識調査）	< 現況値 > < 目標値 >	31.7% ※速報値 ↑ 52.0% 以上	(R3 年度) (R12 年度)
---	--------------------	---------------------------------	---------------------

< 施策 >

にぎわいと魅力あるまちづくりの推進

市街地内の都市計画道路（幹線道路）の整備延長	< 現況値 > < 目標値 >	334.8km ↑ 344.6 km	(R2 年度) (R12 年度)
来街者による賑わいが維持できていると回答した商店街の割合	< 現況値 > < 目標値 >	22.4% ↑ 33.6%	(H30 年度) (R12 年度)

住民が主役となる地域づくり

NPO やボランティアと県内自治体等との協働事業件数	< 現況値 > < 目標値 >	471 件 ↑ 561 件	(R2 年度) (R12 年度)
地域創生総合支援事業（サポート事業）のうち「一般枠」の採択件数	< 現況値 > < 目標値 >	1,661 件 ↑ 2,786 件	(R3 年度) (R12 年度)

生涯の学び、文化・芸術に親しむ環境づくり

県立美術館の入館者数	< 現況値 > < 目標値 >	11,915 人 ↑ 100,000 人	(R2 年度) (R12 年度)
県立博物館の入館者数	< 現況値 > < 目標値 >	65,632 人 ↑ 129,000 人	(R2 年度) (R12 年度)
県文化財センター白河館の入館者数	< 現況値 > < 目標値 >	11,249 人 ↑ 30,000 人	(R2 年度) (R12 年度)
市町村生涯学習講座受講者数（人口千人当たり）	< 現況値 > < 目標値 >	214 人 ↑ 750 人	(R2 年度) (R12 年度)

ふくしまのスポーツの推進

成人の週 1 回以上の運動・スポーツ実施率（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	49.9% ↑ 65%	(R 元年度) (R12 年度)
プロスポーツチームのホーム公式戦平均入場者数	< 現況値 > < 目標値 >	2,433 人 ↑ 8,600 人	(R2 年度) (R12 年度)